

スマートモビリティプラットフォームの構築 公開シンポジウム 2025

成果報告と出口戦略 ①

持続可能なモビリティサービスの提案と全国津々浦々への実装

2025年6月5日

モデレーター： 有吉 亮 サブ課題担当プロジェクトマネージャー（SPM）
名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 特任准教授

スマモビプロジェクトが目指す社会の姿（再掲）

ビジョン：自由に自立して安全・快適に環境・他人・まちにやさしく、皆が、モノが移動できる**モビリティディバイドのない社会**

ミッション：移動する人・モノの視点から、安全で環境にやさしく公平でシームレスな移動を実現するプラットフォームの構築

① 持続可能なモビリティ・サービスの提案と全国津々浦々への実装

② 安全・快適・賑わいのある都市を実現する広義のインフラの提案と実装

+ それらを横断的に支える
データ連携基盤と国際連携



★ 全てのまちが安心・安全に楽しく歩ける

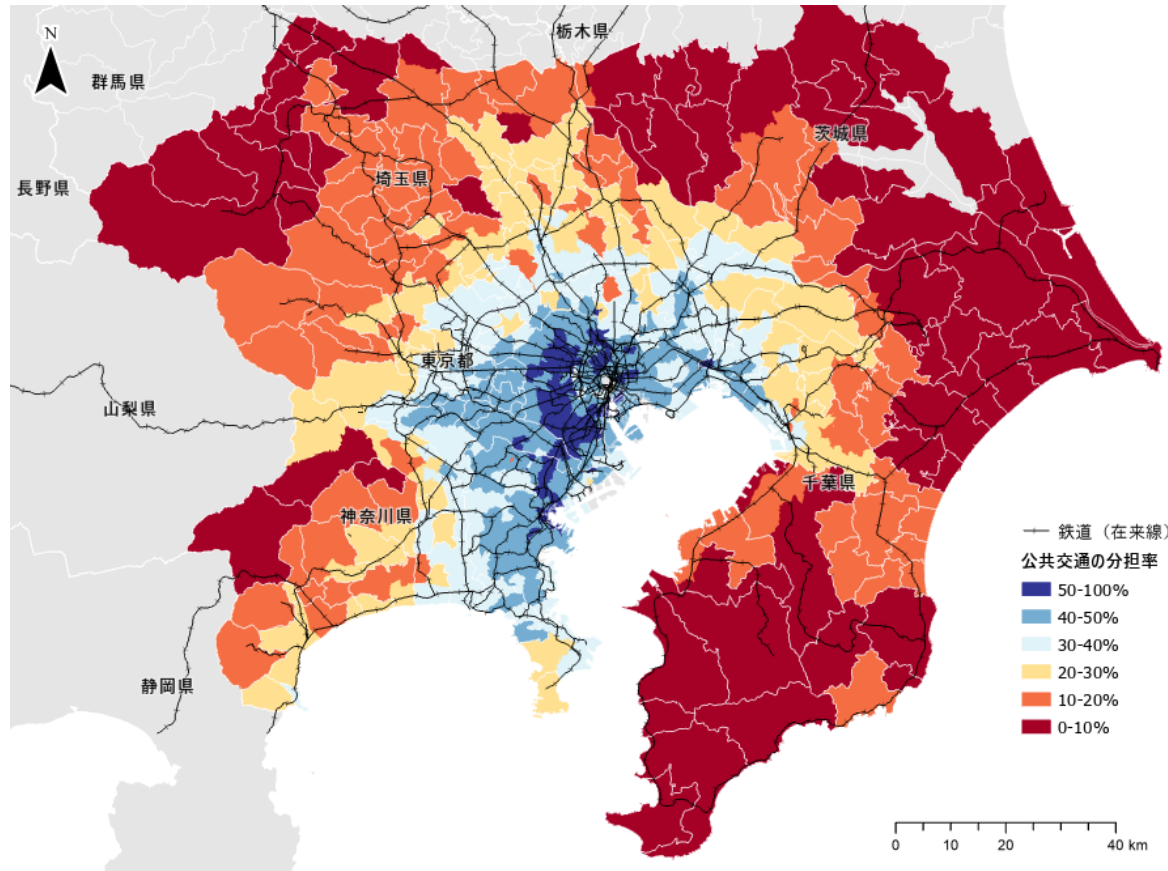
★ 誰もが徒歩 5 分以内で公共交通にアクセス

人材・コミュニティ・運用システム

データ連携基盤：JMDS

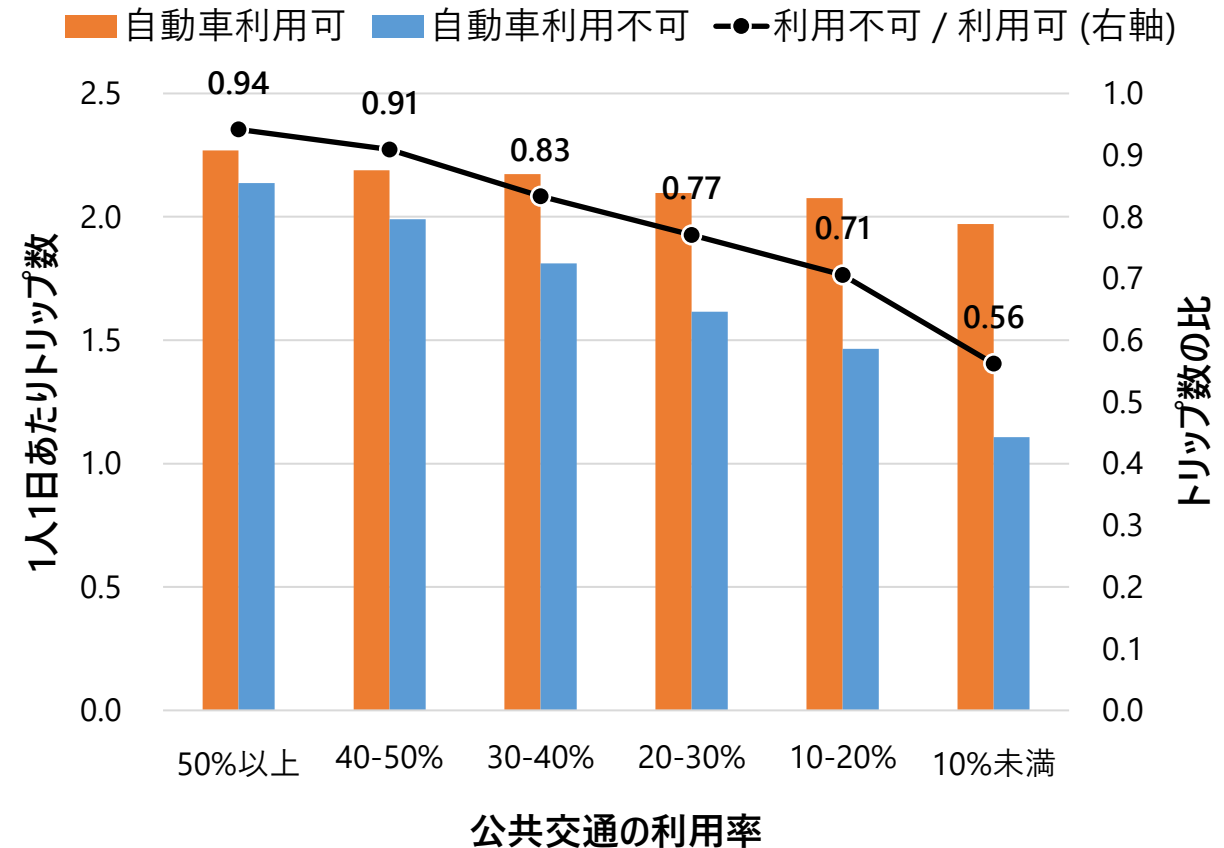
公共交通や自動車の有無による「移動のしやすさ」の隔たり：モビリティディバイド

- 都心から遠ざかるにつれて、人々の移動における
公共交通の利用率（分担率）が低下



東京都市圏における公共交通の利用率
（平日、19歳以上の全移動、2018年）

- 公共交通の利用率が低い（≡ 不便な）地域ほど
自動車の利用可否による**外出・移動頻度の差が大**



公共交通利用率と自動車利用可否と移動回数の関係
（平日、19歳以上の全移動、東京都市圏、2018年）

研究開発成果の社会実装に向けた出口戦略と本セッションの位置づけ



1 持続可能なモビリティサービスの提案と 全国津々浦々への実装

人

- ・リ・デザイン計画指針
- ・空間評価手法
- ・人材育成プログラム 等

サブ課題Ⅰ

モノ

- ・物流共同輸送
(ソフトウェア開発含む)
- ・法制度・ビジネス慣習 等

データ連携

- ・LiPT
- ・まちぐるみSML 等
- ・JMDS

国際連携

- 従来からのADAS中心の欧米連携に加え、
- ・IABの運営と活用
- ・国際ベンチマーク
- ・ITF(P.Christ), FIA (伊藤明日香)

- ・ASEAN連携
学会 EASTS, 大学
政府 経産省、国交省、
JICA, JETRO, 産業界
Willer, A.ChuaI
(シンガポールIABメンバー)

2 安全・快適・賑わいのある都市を実現する 広義のインフラの提案と実装

サブ課題Ⅱ

純技術
開発

LiDAR、
小型モビリティ

サブ課題Ⅲ



インフラ
(ハード)

交差点、
V2X

法制度
改正

速度規制、
法制度改正

インフラ
(ソフト)

デジタルサンドボッ
クス、コミュニティ
形成等

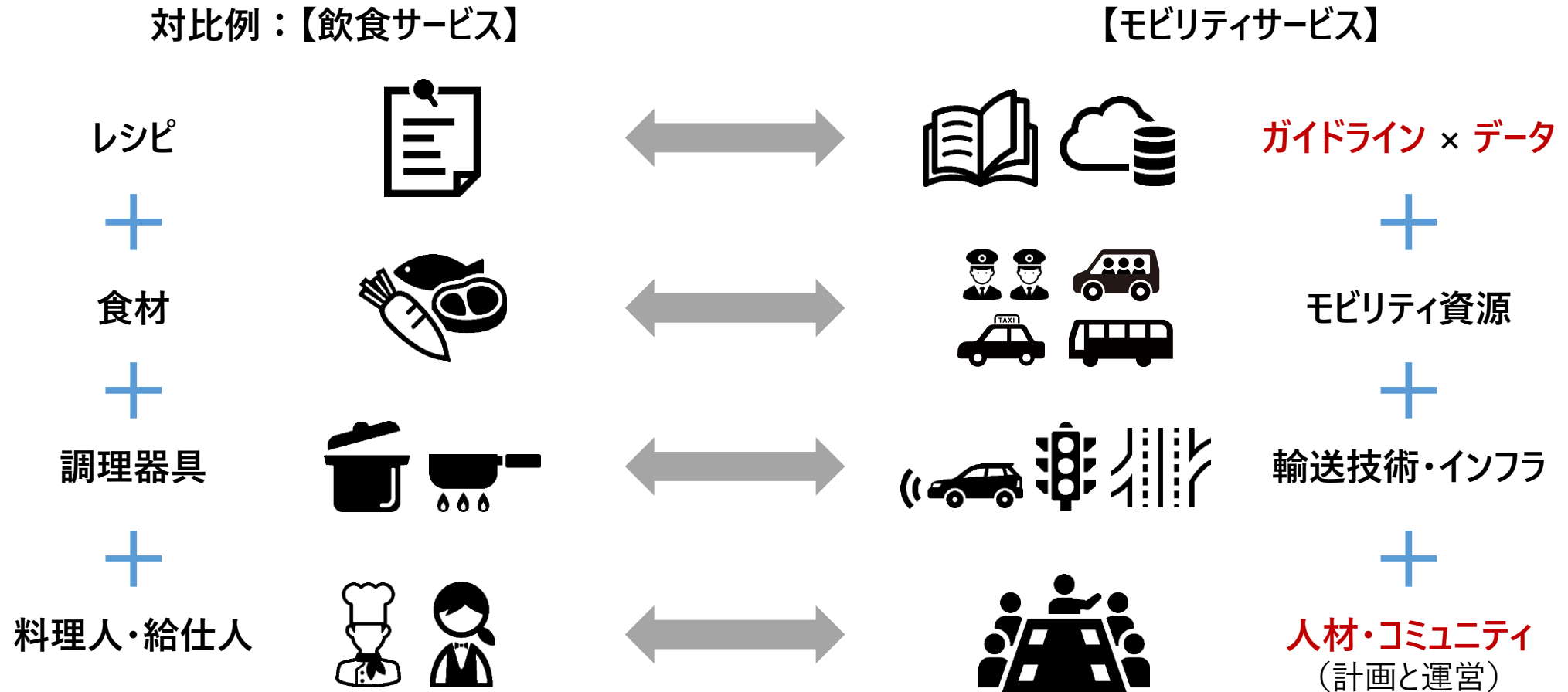
- ・道路・交通安全DB
(ETC2.0、DRM、通
学路、事故データ等)
- ・疑似人流データ 等

サブ課題Ⅳ

サブ課題Ⅴ

「① 持続可能なモビリティサービスの提案と全国津々浦々への実装」での注力点

- 自動走行、センサー、V2X 通信などのモビリティ関連技術 ← 競争領域的
 - 上記技術の効用を最大化する社会的な土台づくり ← 協調領域的
- ともに重要な SIP のターゲット
- モビリティサービスを多様な地域で「実装」し、「持続」させるための注力点：「ガイドライン」「データ」「人材育成」



「① 持続可能なモビリティサービスの提案と全国津々浦々への実装」の出口戦略

